

私は高齢者の方や障がいのある方とお話をしたりした事はあまりなく、特に障がいのある方に関しては、電車やバスで見かけた事がある程度でした。この様な形でしか接した事がない私がやまばと学園訪問で有意義な時を過ごす事が出来るのか心配でした。しかし、その反面、その限られた時間を有意義に使えば自分にとって、とても良い経験になると思い、あまり深く考えずに軽い気持ちで参加しました。

私が始めに訪問した所は高齢者施設でした。最初に部屋に足を踏み入れた時に思った事は、話し声が聞こえず、とても静かだという事です。思っていた雰囲気と少し違い、おどろきました。私達は交流という形で折り紙を折りながらお話をしたりしました。施設のスタッフの方々は皆さんが来てくれて入居者さんがうれしそうな顔をしています。などと話して下さいました。私からは良く分かりませんが、スタッフの方のあたたかい気遣いと少しの変化に気付く事の出来るスタッフの方のすごさを実感しました。私が顔の変化をうまく捉えられなかったのは、高齢者の方の感情がはっきりとしていなかったからだと思います。もし家族と一緒に生活していたり、社会の中で生活していたら感情が豊かに、はっきりしていたのではないかと思います。同級生同士の様にあまりすらすらと会話する事が出来ない高齢者の方の気持ちを汲み取って理解し、一緒になって遊んだり会話を続けたりする事の難しさを経験する事が出来ました。

翌日私達が向かった施設は障がいの重い方達が生活している施設でした。スタッフの方から言葉があまり出ないので、どう表現すれば良いか分からず、手をひっぱったり、寄り掛かってきたりする事もあると聞き、とっさに怖さを感じました。高齢者施設とは違い、各々に動きがあり、言葉も発していましたが、何のメッセージを伝えたいのか理解出来ませんでした。大人の障がいのある方が集団で暮らす施設があるという事に初めて気付かされました。

最終日に私達が訪問した所は、ワークセンターでした。そこでは、障がいの比較的軽い方達が社会で働く為の訓練の場として学んでいました。病院など周辺の地域から運ばれてきたタオルやシーツを畳む作業と一緒にし、私は単純作業のくり返しに疲れを覚えました。そこで働いている方達は長時間もくもくと、丁寧に作業を続けている事におどろきました。スタッフの方のお話によると、そこで働いている方達の知能は3歳から5歳との事で、私達と変わらないと思っていた私は衝撃を受けました。またそこで働いている方達にはその方達に合った仕事があるという事が分かりました。

三日間を通して私は、様々な体験をする事が出来ました。障がいのある方への偏見を持つてはいけないと頭では分かっているものの、実際に偏見を持たないで接する事は難しく、まだまだ自分には足りないなと思いました。特に二日目に訪問した所ではとても強く感じました。施設のスタッフの方は、つねに障がいのある方や、高齢者の気持ちを理解して接している事に感激しました。最終日に施設のスタッフの方が次の様な事をお話しして下さいました。今までは、障がいのあるなしに関わらず、一緒に学校に通っていた。しかし、今では幼い頃から障がいのある人、ない人に分けて障がいのある人も、その人なりのペースで学べる様に

なった。分けて教育を受ける事によって、障がいのない人は、障がいのある人に接する機会がなくなっている。分けて教育を受ける事が良い事なのか、悪い事なのか、分からないとおっしゃっていました。障がいのある方と接する機会が少なくなる事は、その方達に対する社会の偏見が強くなる事に結びつくのではないかと思います。私は最初軽い気持ちで参加しましたが、とても重い現実と社会に残された重い課題に少し触れる事が出来たと思います。